

防災ニュース

滋賀県防災講演会が開催されました

平成25年3月10日(日)草津市市役所に於いて、平成25年度防災講演会が300名の参加のもと開催されました。

テーマ 迫り来る大地震から、いかに生き延びるか!

講演は ①「関西の地震に備える ～東日本大震災から2年を経て～

立命館大学防災研究センター長 土岐 憲三氏の基調講演

②「我が町の自主防災組織活動」

中野 道昭野路副町会長が野路自主防災会の活動について発表

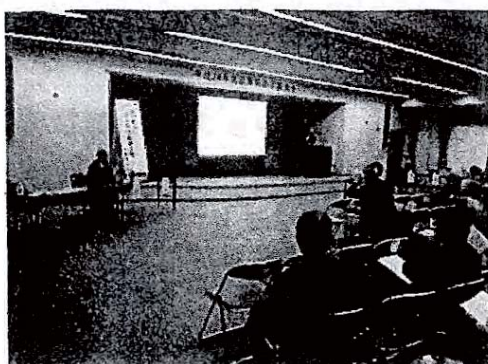
③「命・大切に!巨大地震に備えて 神戸からの教訓」

人と防災未来センター語り部 東田 せつ子さん

趣旨 日本では関東大震災や阪神・淡路大震災、最近では東日本大震災など大きな被害をもたらした災害が発生しました。しかし、実際に被災していない人にとっては災害の真徳というのはどんどんと薄れていくものです。東日本大震災から2年が経過しようとしている今、近い将来の発生が危惧されている東南海、南海地震に備えるためにも、過去の災害の4経験を糧に、自分の命は自分で守るという意識と、地域による防災という「自助」「共助」の必要性を再認識しましょう

野路町自主防災会の活動報告は、自主防災会発足の経緯から24年度1年間の活動について発表しました。

特にまとめとして、自主防災会は、年度に年間計画を策定し、基盤づくりの活動を積み重ね「地域のたすけあいネットワーク」の構築による安全・安心なまちづくりを推進しています。野路町の向こう三軒両隣の68グループの活動を通じて、日頃から声を掛け合い、助け合える絆づくりを推進し、有事に備える活動の積み重ねを実践していきます。と発表しました



★ NO・24

野路自主防災組織事務局
平成25年4月1日
発行責任者 福井太加雄

防ごう！なくそう！

電気火災

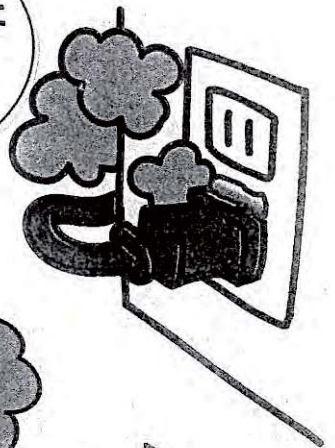


プラグにはほこりがたまっていると発火する場合があります。

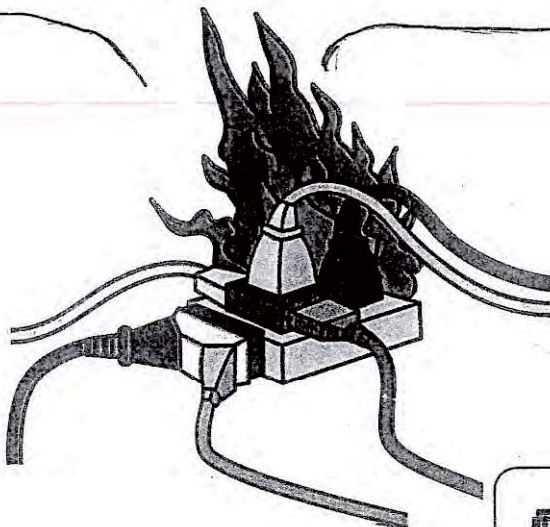
プラグはコンセントの奥まで
しっかりと差し込んでありますか？

月に一度はプラグを抜いて掃除をし、
ほこりや湿気がたまらないようにしま
しょう。

コードは束ねた
まま使わない
ようにしましょう。



タコ足配線はやめましょう。



コードの上に家具や重いものを
おいてませんか？



電気コードを傷つけないように注意しましょう。

一般部門 優良事例

地域のたすけあいネットワーク構築による 安全・安心なまちづくり

事例の概要

■経緯

野路自主防災会では、立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開校およびJR南草津駅の開駅によって、地域内に多数のマンション等が建設され、人口も急増し、従来の町内会の緊密感や融和感が乱れ、住民同士の繋がりが疎遠になってきている。この状況では、地震等の災害が発生すれば、高齢者、障害者等の自力避難困難者や自主避難、避難勧告の情報等が認知しづらいため、要援護者への早期な救助ができないと判断し、地域住民が連携し共助する体制づくりの必要性を痛感した。そこで、災害時における要援護者対策として、地元の大学教授を招いて研修会を行い、住民の防火意識を高める一方、地域のたすけあいネットワーク構築を目指し、災害時に援護が必要な方の実態把握に努め、要援護者への情報伝達、避難誘導、安否確認等が速やかに行えるような体制づくりを進めている。

さらに、個人情報管理の適正な管理をしながら、住民相互に共助できる地域社会を構築できるように市内の先駆者として防災に取り組んでいる。

野路自主防災会(滋賀県草津市)



▲文化財防ぎよ訓練



■内容

1. 災害時たすけあいネットワーク
町内の防災福祉委員が、対象者の訪問活動を実施し、実態把握に努め、必要に応じて「災害時たすけあいネットワーク」に登録することを推進し、民生児童委員、社会福祉協議会、町づくり委員が定期的に家庭訪問を実施している。この事業は、管轄する湖南広域消防局災害福祉ネットに登録されており、災害時において早期に対応できる取り組みをしている。

2. 救急医療情報キット「命のバトン」

70歳以上の高齢者世帯に「救急医療情報キット命のバトン」を配布している。「命のバトン」とは、カプセルに必要な情報(氏名、生年月日、血液型、持病、常備薬、緊急連絡先、かかりつけの病院等)を記したカードを入れ、冷蔵庫で保管していることを明示することで、必要な情報を救急隊に伝達できる取り組みである。

3. 高齢者の福祉対策として、老人クラブと連携し、「野路わくわくサロン」を開催している。
4. 防災講座や各種訓練を定期的に行い、地域住民の防災意識の向上に努めている。
5. 防災ニュースを年6回発行し、住民への情報の共有化に努めている。



▲救急医療情報キット「命のバトン」

■苦労した点

1. 「自分たちの地域は自分で守る」という自助・共助について、それまで浸透しておらず、理解を得るのに時間を要した。
2. 新規転入者がますます増加していることから、全体把握に努力を要した。
3. 身よりのない方の避難協力者の確保に苦労した。
4. 個人情報(ポリエチレン製カプセル)を冷蔵庫に保管することに抵抗を感じることがおられ、理解してもらうことに苦労した。
5. キットがあることを示す方法について、最善策を見出すまでに時間を要した。

■特徴

1. 町内会事業が防災に通じる観点で組まれてある。
2. 町内会の各分会等が自主防災活動に何らかの形で関わって、都市化が進む地域では珍しく町内一体となった防災活動を展開している。
3. 地元大学教授による研修会の開催や学生による地域支援活動があり、地域と連携が取れている。
4. たすけあいネットワーク登録者については、定期的な家庭訪問で現状変化が早く把握出来る。
5. カプセルの常置場所の冷蔵庫は、どの家庭にもあり、見つけやすく堅牢である。

その他

●団体概要

野路自主防災会

町会長を隊長とし、様々な町内会運営委員会(町づくり委員会、玉川学区民生児童委員、社会福祉協議会、女性消防隊、交通安全協会、財産区管理委員会、老人クラブ寿会、評議委員、壮年会、更生保護女性会、日赤奉仕団、氏子総代会、エルダー婦人会、酒味湯の会)からなる組織である。

構成人員・町内会運営委員 実施期間 平成20年6月～

▲防災訓練での消火バケツリレー